

1 育成を目指す資質・能力の検証

□ 学校として育成を目指す資質・能力は、生徒が生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう、これからの時代に求められる資質・能力を踏まえたものとなっていますか。

変化の激しい社会の中、生徒一人一人に、主体的に学んで必要な情報を判断し、よりよい人生や社会の在り方を考え、多様な人々と協働しながら問題を発見し解決していくために必要な力を育てていくためには、あらゆる教科等に共通した学習の基盤となる資質・能力や、教科等の学習を通じて身に付けた力を統合的に活用して現代的な諸課題に対応していくための資質・能力を、教育課程全体を通じて育てていくことが重要です。

とりわけ、新型コロナウイルス感染症の影響により、デジタル化を含む社会の変化は加速度を増しており、情報活用能力育成の観点からカリキュラム・マネジメントを行うことが求められています。

I 学習の基盤となる資質・能力

【中学校学習指導要領第1章第2の2の(1)】

各学校においては、生徒の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。

【情報活用能力の要素】

情報活用能力の育成に向けては、資質・能力の3つの柱をより具体的に捉え、教科等横断的な視点で育てていくことができるようにすることが大切です。

資質・能力	要素	
知識及び技能	情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能	①情報技術に関する技能 ②情報と情報技術の特性の理解 ③記号の組合せ方の理解
	問題解決・探究における情報活用の方法の理解	①情報収集、整理、分析、表現、発信の理解 ②情報活用の計画や評価・改善のための理論や方法の理解
	情報モラル・情報セキュリティなどについての理解	①情報技術の役割・影響の理解 ②情報モラル・情報セキュリティの理解
思考力、判断力、表現力等	問題解決・探究における情報を活用する力（プログラミング的思考・情報モラル・情報セキュリティを含む）	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用し、問題を発見・解決し、自分の考えを形成していく力 ①必要な情報を収集、整理、分析、表現する力 ②新たな意味や価値を創造する力 ③受け手の状況を踏まえて発信する力 ④自らの情報活用を評価・改善する力 等
学びに向かう力、人間性等	問題解決・探究における情報活用の態度	①多角的に情報を検討しようとする態度 ②試行錯誤し、計画や改善しようとする態度
	情報モラル・情報セキュリティなどについての態度	①責任をもって適切に情報を扱おうとする態度 ②情報社会に参画しようとする態度

【情報活用能力育成のための想定される学習内容】

情報活用能力を各教科等の特質に応じて適切な学習場面で育成することが大切です。

想定される学習内容	例
基本的な操作等	キーボード入力やインターネット上の情報の閲覧など、基本的な操作の習得等に関するもの 等
問題解決・探究における情報活用	問題を解決するために必要な情報を集め、その情報を整理・分析し、解決への見通しをもつことができる等、問題解決・探究における情報活用に関するもの 等
プログラミング（問題解決・探究における情報活用の一部として整理）	単純な繰り返しを含んだプログラムの作成や問題解決のためにどのような情報を、どのような時に、どれだけ必要とし、どのように処理するかといった道筋を立て、実践しようとするもの 等
情報モラル・情報セキュリティ	SNS、ブログ等、相互通信を伴う情報手段に関する知識及び技能を身に付けるものや情報を多角的・多面的に捉えたり、複数の情報を基に自分の考えを深めたりするもの 等

II 現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力

【中学校学習指導要領第1章第2の2の(2)】

各学校においては、生徒や学校、地域の実態及び生徒の発達の段階を考慮し、豊かな人生の実現や災害等乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点で育成していくことができるよう、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るものとする。

平成28年12月の中央教育審議会答申では、次のような資質・能力が示されています。

- ・健康・安全・食に関する力
- ・主権者として求められる力
- ・新たな価値を生み出す豊かな創造性
- ・グローバル化の中で多様性を尊重するとともに、現在まで受け継がれてきた我が国固有の領土や歴史について理解し、伝統や文化を尊重しつつ、多様な他者と協働しながら目標に向かって挑戦する力
等

□ 学校として目指す資質・能力を身に付けさせるための指導は、生徒の発達の段階等を踏まえた体系的なものとなっていますか。

教育課程に基づく個々の教育活動が、生徒一人一人に未来の創り手となるために必要な力を育むことに効果的につながっていくようにするためには、「何を学ぶか」という教育の内容を重視しつつ、その内容を学ぶことで「何ができるようになるか」という育成を目指す資質・能力を指導のねらいとして設定していくことが重要です。

そのため、例えば、生徒の発達の段階に応じて目指す資質・能力を明確にした体系表などを作成し、客観的な評価と指導の改善・充実を図っていくことなどが大切です。

【情報活用能力（学習の基盤となる資質・能力）の体系表の例】

資質・能力	要素	育成を目指す資質・能力の具体			
		小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	中学校
知識及び技能	情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能	・コンピュータの起動や終了、写真撮影などの基本操作 ・電子ファイルの呼び出しや保存 など	・キーボードなどによる文字の正しい入力方法 ・電子ファイルの検索 ・映像編集アプリケーションの操作 など	・キーボードなどによる文字の正確な入力 ・電子フォルダの管理 ・目的に応じたアプリケーションの選択と操作 など	・キーボードなどによる十分な速さで正確な文字の入力 ・電子ファイルの運用 ・目的に応じた適切なアプリケーションの選択と操作 など
思考力、判断力、表現力等	問題解決・探究における情報を活用する力(プログラミング的思考・情報モラル・情報セキュリティを含む)	・体験や活動から疑問をもち、解決の手順を見通したり分解したりして、どのような手順の組み合わせが必要かを考えて実行する。	・収集した情報から課題を見付け、解決に向けた活動を実現するために情報の活用が見通しを立て、実行する。	・問題を焦点化し、ゴールを明確にし、シミュレーションや試行錯誤を行いながら問題解決のための情報活用計画を立て、調整しながら実行する。	・問題の解決に向け、条件を踏まえて情報活用計画を立て最適化し、解決に向けた計画を複数立案し、評価・改善しながら実行する。

【第2学年「技術・家庭科（技術分野）」の実践】

(単元名) 情報に関する技術 プログラミングの基礎
(目標) 情報通信ネットワークの構成と情報を利用するための基本的な仕組みを理解し、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができること。

(学習の主な流れ)

- ・掃除ロボットや洗濯機の動作を要素毎に分解し、その仕組みについて考え、実際にプログラムを作成する。
- ・計測・制御の基本的な仕組みを理解し、動作の組合せによって複雑な動作ができることを知る。
- ・既存のプログラムの動作を見て、同じものをプログラミングするという問題解決のため、プログラムを確認及びデバッグしながら制作する。

【第3学年「国語」の実践】

(単元名) 情報を編集するしかけ
(目標) 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすること。
(学習の主な流れ)

- ・同一の情報内容で新聞記事やテレビニュースを編集する際の組み立てについて話し合う。
- ・グループに分かれて、同じテーマを扱った複数枚の画像を使って映像を作り、アナウンサー役の生徒がニュースを読み上げる。
- ・扱う画像や話す内容の違いによって、印象が違うことを感じ、情報を発信する側の意図とその意図をもとにした情報について考える。
- ・日常生活のニュースを比べ、事実は何かを探ったり、自分が情報発信する際に伝えたいことが伝わる手段や表現は何かを考えたりする。